

研究成果報告書

(国立情報学研究所の民間助成研究成果概要データベース・登録原稿)

研究テーマ (和文)	環境保全と貧困緩和の両立可能性に関する経済学的研究		
研究テーマ (英文)	Economic study on the compatibility of environmental protection and poverty alleviation		
研究期間	2019年～2020年		研究機関名 神戸大学
研究代表者	氏名	(漢字)	竹内 憲司
		(カタカナ)	タケウチ ケンジ
		(英文)	Kenji Takeuchi
	所属機関・職名	神戸大学経済学研究科・教授	
共同研究者 (1名をこえる場合は、別紙追加用紙へ)	氏名	(漢字)	梅津 千恵子
		(カタカナ)	ウメツ チエコ
		(英文)	Chieko Umetsu
	所属機関・職名	京都大学農学研究科・教授	

概要 (600字～800字程度にまとめてください。)

ガーナ首都圏郊外に位置する2つの地区(district)において、2020年8月に904件の訪問面接調査を実施し、2017年に同地区で実施されたRLPGPP(農村におけるLPG普及プログラム)の評価をおこなった。アンケート調査票は、家計におけるLPGの所有状況、各種の調理燃料に関する使用状況、社会経済的属性、LPGの配送サービスに対する支払い意志額などに関する質問を含んでいる。収集したデータを分析した結果、RLPGPPによって2017年にLPGシリンダーを受け取った家計では、そうでない家計に比べてLPGを主な調理燃料とする確率が23.5%高いことが明らかになった。さらに、LPGを供給する再充填ステーションまでの距離との関係を調べたところ、距離が1分遠くなるにつれてLPGを主な調理燃料とする確率が0.2%低くなることが明らかになった。また農家とそれ以外の家計を比較すると、後者についてはRLPGPPの効果は統計的に有意であったが、前者については統計的に有意ではなかった。以上から、ガーナで実施されたLPG普及政策が家計におけるクリーンな調理燃料の使用に正の効果をもたらしていること、しかしながらLPGを供給する再充填ステーションまでの距離が遠くなると利用が低くなるため、ステーションの数を増やして入手可能性を確保することが鍵となること、農業廃棄物など代替的な燃料が容易に入手可能な農家については政策の効果が低くなることが予想されるため、代替的燃料の使用を抑制するような補完的政策が必要であることが結論づけられる。

発表文献（この研究を発表した雑誌・図書について記入してください。）						
雑誌	論文課題	The Effect of In Utero Exposure to Household Air Pollution on Child Health: Evidence from Ghana				
	著者名	Adjei-Mantey, K., Takeuchi, K.	雑誌名	Health Policy Open		
	ページ	100029	発行年	2 0 2 1	巻号	2
雑誌	論文課題					
	著者名		雑誌名			
	ページ	～	発行年		巻号	
雑誌	論文課題					
	著者名		雑誌名			
	ページ	～	発行年		巻号	
図書	書名					
	著者名					
	出版社		発行年		総ページ	
図書	書名					
	著者名					
	出版社		発行年		総ページ	

英文抄録（100語～200語程度にまとめてください。）

This study investigates the impact of a clean cooking intervention on primary fuel choice and on households' willingness to pay for an improved LPG distribution model in Ghana. Using data obtained via a survey of 904 households in two beneficiary districts, we found that the intervention led to higher LPG usage. The program increases the probability of households choosing LPG as a primary cooking fuel by 24% and the rate of use of LPG among households by 33%. On the other hand, an analysis of willingness to pay shows that delivery preference is not statistically different between beneficiary and control groups. The distance to refill the cylinder significantly affects LPG usage and willingness to pay. A policy that brings LPG refill closer to households and reduces the time and money cost of accessing a refill station is key to increasing the adoption of LPG as the primary cooking fuel.

共同研究者	氏名	(漢字)	佐藤 真行	
		(カタカナ)	サトウ マサユキ	
		(英文)	Masayuki Sato	
	所属機関・職名		神戸大学人間発達環境学研究所・教授	
	氏名	(漢字)	横尾 英史	
		(カタカナ)	ヨコオ ヒデフミ	
		(英文)	Hide-fumi Yokoo	
	所属機関・職名		一橋大学経済学研究所・講師	
	氏名	(漢字)	山本 裕基	
		(カタカナ)	ヤマモト ユウキ	
		(英文)	Yuki Yamamoto	
	所属機関・職名		長崎大学環境科学部・准教授	
	氏名	(漢字)		
		(カタカナ)		
		(英文)		
	所属機関・職名			
	氏名	(漢字)		
		(カタカナ)		
		(英文)		
	所属機関・職名			
	氏名	(漢字)		
(カタカナ)				
(英文)				
所属機関・職名				
氏名	(漢字)			
	(カタカナ)			
	(英文)			
所属機関・職名				
氏名	(漢字)			
	(カタカナ)			
	(英文)			
所属機関・職名				